

事務事業名	児童館管理運営事業			
事務事業担当	部 名	課 名	担当名	責任者
	こども部	こども・青少年課	こども・青少年育成係	富田 仁

1. 位置づけ・事務事業の期間

総合計画体系	基本目標	人の健康・未来に向かうこどもの学びと歩みを支えるまち		
	個別目標	こどもの豊かな心・健やかな体を育む		
	めざす成果	こどもが豊かな感性を身につけている		
根拠法令	名 称			
当該事業の法令等による義務付けの有無		無		
事務事業の期間	事業開始年度 昭和48年度		事業終了（予定）年度	事業期間 設定無し

2. 事務事業の概要

対 象	総事業費 (単位：千円)			
市内在住6歳以上16歳未満の者、市内居住の付添人のある6歳未満の者、児童の育成に関する事業を行う団体		3年度（決算額）	4年度（決算額）	5年度（予算額）
	事業費	66,051	70,183	71,685
	人件費	7,072	3,350	1,638
目 的	総事業費	73,123	73,533	73,323
児童に健全な遊びを与えて、その健康を増進し、情操を豊かにします。	5年度事業費（予算額）財源内訳			
	国支出金			0
手段、手法【実施手法：指定管理】	県支出金			0
	市債			0
	その他			0
	一般財源			71,685
	合 計			71,685

3. 活動内容

活動指標1	名称	利用人数		単位	人
	内容説明	全館における利用者合計			
	指標値		3年度	4年度（当該年度）	5年度
		予 定	50,000	80,000	80,000
		実 績	46,725	56,279	―――
活動指標2	名称	1館あたりの行事実施回数		単位	回
	内容説明	総事業実施回数／22館			
	指標値		3年度	4年度（当該年度）	5年度
		予 定	12	12	12
		実 績	12	12	―――
活動指標3	名称			単位	
	内容説明				
	指標値		3年度	4年度（当該年度）	5年度
		予 定			
		実 績			―――
活動指標4	名称			単位	
	内容説明				
	指標値		3年度	4年度（当該年度）	5年度
		予 定			
		実 績			―――

4. 今後の方針等

今後の方針等	2年度	Ⅱ：見直しのうえで継続	3年度	Ⅱ：見直しのうえで継続	4年度	Ⅱ：見直しのうえで継続
	子どもたちを対象とする各種の放課後事業との整合性を図りつつ、児童館の役割や運営手法などについて検討するとともに、子どもたちにとって充実した時間が過ごせる居場所となるよう、引き続き指定管理者との調整に努めます。					

5. 評価結果				
市の関与の妥当性	評価結果			市が関与する必要性があるか。
	2年度	3年度	4年度	B：市が関与する必要性が低くなりつつある。
	B	B	B	地域住民により構成された団体が指定管理者として、主体的に地域の実情に即した管理運営を行っていることから、市の関与は低くなっています。
事務事業の成果	評価結果			さらに成果を上げるにはどうしたらよいか。
	2年度	3年度	4年度	B：成果を上げる余地が一部ある。
	B	B	B	利用者のニーズや地域の実情に合わせた自主事業を実施するなど、児童館が子どもたちにとって充実した居場所となるよう指定管理者との調整に努めます。
事業費・人件費	評価結果			事業費、人件費は適正か。
	2年度	3年度	4年度	A：経費は適正な水準である。
	A	A	A	地域住民が主体となった指定管理者による自主的な運営がなされていることから、経費は適正な水準であると考えます。
受益・負担の公平性	評価結果			受益の公平性と負担の適正化は図られているか。
	2年度	3年度	4年度	A：受益・負担は適正である。
	A	A	A	安全で自由な子どもたちの居場所として地域に解放していることから、公平性と負担の適正化は図られています。
社会的配慮	評価結果			市民参加、情報提供、ユニバーサルデザインへの対応、環境負担軽減、SDGsの達成に向けた取り組み5点について十分に行ったか。
	2年度	3年度	4年度	B：社会的配慮は行っているが、まだ不十分である。
	B	B	B	指定管理者の構成団体として自治会のほか、子ども会や青少年健全育成団体等が参加しており、地域の子どもの健全育成に寄与しています。また、各児童館がホームページを公開しており、市民へ向けた情報発信を行っています。なお、単独児童館については、ユニバーサルデザインへの対応が必要となっています。

事務事業名	放課後児童クラブ事業			
事務事業担当	部 名	課 名	担当名	責任者
	こども部	こども・青少年課	こども・青少年育成係	富田 仁

1. 位置づけ・事務事業の期間

総合計画体系	基本目標	人の健康・こどもがすくすく成長する産み育てやすいまち			
	個別目標	働きながら子育てができるようにする			
	めざす成果	安心してこどもを預けることができる			
根拠法令	名 称	児童福祉法			
当該事業の法令等による義務付けの有無		無			
事務事業の期間	事業開始年度		事業終了（予定）年度		事業期間
	昭和60年度				設定無し

2. 事務事業の概要

対 象	総事業費			(単位：千円)
保護者の就労や疾病等により昼間、保護者がいない等の児童		3年度（決算額）	4年度（決算額）	5年度（予算額）
	事業費	462, 935	447, 068	526, 190
	人件費	36, 052	33, 446	33, 776
目 的	総事業費	498, 987	480, 514	559, 966
保護者の就労や疾病等により昼間、保護者がいない等の児童に対し、適切な遊びや生活の場を提供し、児童の健全な育成を図ります。	5年度事業費（予算額）財源内訳			
		国支出金		133, 275
		県支出金		133, 275
		市債		0
		その他		125, 341
		一般財源		134, 299
手段、手法【実施手法：直営・委託】	合 計			526, 190
・小学校の余裕教室等を活用し、資格を有する支援員等により児童クラブの運営を行います。				
・公営児童クラブのない学区（南林間小学校、西鶴間小				

3. 活動内容

活動指標1	名称	入所児童数（公営）			単位	人
	内容説明	（公営）児童クラブ入所児童数の合計				
	指標値		3年度	4年度（当該年度）	5年度	
		予 定	1,591	1,677	1,750	
		実 績	1,535	1,657	―――	
活動指標2	名称	入所児童数（民営委託）			単位	人
	内容説明	（民営委託）児童クラブ入所児童数の合計				
	指標値		3年度	4年度（当該年度）	5年度	
		予 定	146	149	148	
		実 績	126	129	―――	
活動指標3	名称	入所児童数（民営補助）			単位	人
	内容説明	（民営補助）児童クラブ入所児童数の合計				
	指標値		3年度	4年度（当該年度）	5年度	
		予 定	309	328	387	
		実 績	268	274	―――	
活動指標4	名称				単位	
	内容説明					
	指標値		3年度	4年度（当該年度）	5年度	
		予 定				
		実 績			―――	

4. 今後の方針等

今後の方針等	2年度	Ⅱ：見直しのうえで継続	3年度	Ⅱ：見直しのうえで継続	4年度	Ⅱ：見直しのうえで継続
	共働き世帯の増加などにより、入会を希望する児童数の増加が想定されることから、引き続き、学校や教育委員会、民営児童クラブと居室の確保について調整を行うとともに、人材の確保及び保育の質の向上に努めます。 配慮が必要な児童については、心理相談員と保育士が定期的に児童クラブを巡回訪問し、職員に対して適切な指導、助言を行うとともに、関係部署との情報共有や意見交換会の実施など継続した連携を図ります。 【第2期「健康都市 やまと」まち・ひと・しごと創生総合戦略関連事業】					

5. 評価結果				
市の関与の妥当性	評価結果			市が関与する必要性があるか。
	2年度	3年度	4年度	A：市が関与する必要性が高い。
	A	A	A	入会児童の健全育成と保護者の就労に伴う子育て支援のため、積極的に関与する必要があります。
事務事業の成果	評価結果			さらに成果を上げるにはどうしたらよいか。
	2年度	3年度	4年度	B：成果を上げる余地が一部ある。
	B	B	B	放課後における児童を対象としている各事業との連携を継続し、効率的で効果的な運営手法について検討を行うとともに、入会児童の増加に対応するため、居室と支援員等の確保が必要です。また、入会児童に対して適切な対応ができるよう保育の質の向上が求められています。
事業費・人件費	評価結果			事業費、人件費は適正か。
	2年度	3年度	4年度	A：経費は適正な水準である。
	A	A	A	事業費、人件費ともに適正な水準と考えます。
受益・負担の公平性	評価結果			受益の公平性と負担の適正化は図られているか。
	2年度	3年度	4年度	B：一部見直しが必要である。
	B	B	B	受益者負担について、他市の状況を踏まえた検討が必要です。
社会的配慮	評価結果			市民参加、情報提供、ユニバーサルデザインへの対応、環境負担軽減、SDGsの達成に向けた取り組み5点について十分に行ったか。
	2年度	3年度	4年度	A：社会的配慮を十分に行っている。
	A	A	A	各児童クラブに設置している保護者主体の運営委員会に対して補助金を交付し、児童クラブ運営への積極的な関与を図っています。また、配慮が必要な児童については、心理相談員と保育士とで定期的に行う児童クラブ巡回訪問を通じて、適切な支援にあたっています。

事務事業名	青少年育成事業			
事務事業担当	部 名	課 名	担当名	責任者
	こども部	こども・青少年課	こども・青少年活動推進係	富田 仁

1. 位置づけ・事務事業の期間

総合計画体系	基本目標	人の健康・未来に向かうこどもの学びと歩みを支えるまち		
	個別目標	こどもの豊かな心・健やかな体を育む		
	めざす成果	こどもが豊かな感性を身につけている		
根拠法令	名 称			
当該事業の法令等による義務付けの有無		無		
事務事業の期間	事業開始年度 平成10年度		事業終了（予定）年度	事業期間 設定無し

2. 事務事業の概要

対 象	総事業費 (単位：千円)			
小学校高学年から青年まで。		3年度（決算額）	4年度（決算額）	5年度（予算額）
	事業費	128	798	853
	人件費	4,466	7,965	9,309
目 的	総事業費	4,594	8,763	10,162
大和ユースクラブの各種活動を通して、若者の健全育成と能力開発を図ります。	5年度事業費（予算額）財源内訳			
		国支出金		0
手段、手法【実施手法：直営・委託】 ・大和ユースクラブに青少年に関わる事業を委託し、自主企画・自主運営を促進します。		県支出金		398
		市債		0
		その他		0
		一般財源		455
		合 計		853

3. 活動内容

活動指標1	名称	ユースクラブ活動日数		単位	日
	内容説明	ユースクラブが実施した研修・ボランティア活動等の日数			
	指標値		3年度	4年度（当該年度）	5年度
		予 定	63	90	80
		実 績	39	70	――
活動指標2	名称			単位	
	内容説明				
	指標値		3年度	4年度（当該年度）	5年度
		予 定			
		実 績			――
活動指標3	名称			単位	
	内容説明				
	指標値		3年度	4年度（当該年度）	5年度
		予 定			
		実 績			――
活動指標4	名称			単位	
	内容説明				
	指標値		3年度	4年度（当該年度）	5年度
		予 定			
		実 績			――

4. 今後の方針等

今後の方針等	2年度	Ⅱ：見直しのうえで継続	3年度	Ⅱ：見直しのうえで継続	4年度	Ⅱ：見直しのうえで継続
	・大和ユースクラブ会員の確保と、会員一人ひとりの意識・資質を高めるため、活動の運営方法や事業の周知方法等を継続して検討していく必要があります。					
	・コロナ禍の状況に応じて、実施手法や活動内容を見直す必要があります。					

5. 評価結果				
市の関与の妥当性	評価結果			市が関与する必要性があるか。
	2年度	3年度	4年度	A：市が関与する必要性が高い。
	A	A	A	青少年の健全育成と資質の向上という事業の特性から、市の関与が必要です。
事務事業の成果	評価結果			さらに成果を上げるにはどうしたらよいか。
	2年度	3年度	4年度	B：成果を上げる余地が一部ある。
	B	B	B	周知や実施の方法を検討し、多くの市民の参加を目指します。
事業費・人件費	評価結果			事業費、人件費は適正か。
	2年度	3年度	4年度	A：経費は適正な水準である。
	A	A	A	事業の目的を達成するために、事業費、人件費ともに適正な水準であると考えます。
受益・負担の公平性	評価結果			受益の公平性と負担の適正化は図られているか。
	2年度	3年度	4年度	A：受益・負担は適正である。
	A	A	A	活動で発生する材料費の一部は参加者が負担するなど、受益・負担ともに適正な水準であると考えます。
社会的配慮	評価結果			市民参加、情報提供、ユニバーサルデザインへの対応、環境負担軽減、SDGsの達成に向けた取り組み5点について十分に行ったか。
	2年度	3年度	4年度	A：社会的配慮を十分に行っている。
	A	A	A	市のホームページや広報により広く市民に周知し、主に電子媒体で参加者同士のやり取りをすることで、社会的配慮を充分に行っていると考えます。

事務事業名	青少年指導者育成支援事業			
事務事業担当	部 名	課 名	担当名	責任者
	こども部	こども・青少年課	こども・青少年活動推進係	富田 仁

1. 位置づけ・事務事業の期間

総合計画体系	基本目標		人の健康・未来に向かうこどもの学びと歩みを支えるまち			
	個別目標		こどもの豊かな心・健やかな体を育む			
	めざす成果		こどもが豊かな感性を身につけている			
根拠法令	名 称					
当該事業の法令等による義務付けの有無		無				
事務事業の期間	事業開始年度		事業終了（予定）年度		事業期間	
	昭和36年度				設定無し	

2. 事務事業の概要

対 象		総事業費				(単位：千円)		
大和市青少年指導員連絡協議会、大和市子ども会連絡協議会、大和市母親クラブ連絡協議会			3年度（決算額）		4年度（決算額）		5年度（予算額）	
		事業費	4,640		6,052		7,128	
		人件費	16,824		10,571		14,522	
		総事業費	21,464		16,623		21,650	
目 的								
地域で青少年健全育成を進める団体の協議会活動を支援し、指導者を養成することで、青少年が活動しやすい環境を構築します。		5年度事業費（予算額）財源内訳						
				国支出金		0		
				県支出金		673		
				市債		0		
				その他		0		
				一般財源		6,455		
				合 計		7,128		
手段・手法【実施手法：直営・委託】		3. 活動内容						
・地域で青少年の健全育成を進める3団体については、補助金による運営費の支援と、行政内に事務局を置く人的な支援を行っています。 ・青少年育成団体や中高生ボランティア等が主体となり、青少年を対象としたイベントを開催します。 ・さらに指導者の資質向上のための研修も開催しています。		活動指標1	名称	青少年指導員年間活動数			単位	回
			内容説明	各地区での活動数＋専門部会開催数＋連協事業数				
			指標値			3年度	4年度（当該年度）	5年度
				予 定	90	300	300	
				実 績	144	274	――	
成 果（効果・予測）								
・青少年健全育成を進める団体の活性化や、地域指導者、中高生ボランティアの育成を進めることによって、地域での健全育成に対する取り組みが活発になります。		活動指標2	名称	市子ども会連絡協議会加入数			単位	団体
			内容説明	市子ども会連絡協議会加入子ども会数				
			指標値			3年度	4年度（当該年度）	5年度
				予 定	25	25	25	
				実 績	25	25	――	
課 題								
・青少年指導員の定数確保のために検討が必要です。		活動指標3	名称	青少年センターまつり参加団体数			単位	団体
			内容説明	青少年センターまつりのステージや出店等の参加団体数				
			指標値			3年度	4年度（当該年度）	5年度
				予 定	3	3	3	
				実 績	0	3	――	
		活動指標4	名称	子どもの外遊び地域イベント開催地区数			単位	地区
			内容説明	子どもの外遊び地域イベントを開催した地区数				
			指標値			3年度	4年度（当該年度）	5年度
				予 定	12	12	12	
				実 績	0	10	――	

4. 今後の方針等

今後の方針等	2年度	Ⅱ：見直しのうえで継続	3年度	Ⅱ：見直しのうえで継続	4年度	Ⅱ：見直しのうえで継続
	各団体がコロナ禍の状況を見定めながら、効果的、効率的な運営ができるよう助言等の支援を行います。					

5. 評価結果				
市の関与の妥当性	評価結果			市が関与する必要性があるか。
	2年度	3年度	4年度	A：市が関与する必要性が高い。
	A	A	A	各地域で青少年健全育成の取り組みを進めるため、市が関与することが必要です。
事務事業の成果	評価結果			さらに成果を上げるにはどうしたらよいか。
	2年度	3年度	4年度	B：成果を上げる余地が一部ある。
	B	B	B	各団体が地域の実情に即した運営ができるよう、事務局としてより効果的な助言等の支援を行う必要があると考えます。
事業費・人件費	評価結果			事業費、人件費は適正か。
	2年度	3年度	4年度	A：経費は適正な水準である。
	A	A	A	地域の青少年健全育成を進めるための経費として、適正な水準であると考えます。
受益・負担の公平性	評価結果			受益の公平性と負担の適正化は図られているか。
	2年度	3年度	4年度	A：受益・負担は適正である。
	A	A	A	青少年健全育成活動を推進するための支援事業であるため、負担を求めるものではありません。
社会的配慮	評価結果			市民参加、情報提供、ユニバーサルデザインへの対応、環境負担軽減、SDGsの達成に向けた取り組み5点について十分に行ったか。
	2年度	3年度	4年度	A：社会的配慮を十分に行っている。
	A	A	A	市のホームページや広報等により、広く市民に周知していることから、社会的配慮については十分であると考えます。

事務事業名	大和市家庭・地域教育活性化会議支援事業			
事務事業担当	部 名	課 名	担当名	責任者
	こども部	こども・青少年課	こども・青少年活動推進係	富田 仁

1. 位置づけ・事務事業の期間

総合計画体系	基本目標	人の健康・未来に向かうこどもの学びと歩みを支えるまち		
	個別目標	こどもの豊かな心・健やかな体を育む		
	めざす成果	こどもが豊かな感性を身につけている		
根拠法令	名 称			
当該事業の法令等による義務付けの有無		無		
事務事業の期間	事業開始年度 平成14年度		事業終了（予定）年度	事業期間 設定無し

2. 事務事業の概要

対 象	総事業費（単位：千円）			
大和家庭・地域教育活性化会議推進委員会、中央林間連合環境浄化推進協議会、「愛の一声をかける運動」をすすめる会、大和東小学校区青少年を健やかに育てる会		3年度（決算額）	4年度（決算額）	5年度（予算額）
	事業費	1,514	1,396	1,710
	人件費	2,233	2,233	1,862
目 的	総事業費	3,747	3,629	3,572
学校と地域・家庭の連携を強化し、家庭や地域の教育力を高めるとともに、地域の連帯感を高め、地域ぐるみの青少年健全育成活動を推進します。	5年度事業費（予算額）財源内訳			
	国支出金	0		
	県支出金	855		
	市債	0		
	その他	0		
	一般財源	855		
	合 計	1,710		

手段、手法【実施手法：直営】 ・地区活性化会議については、推進委員会をとおして事業内容に応じた運営費の支援を補助金によって行っています。また、各種団体代表及び地区代表から成る推進委員会との連絡調整を行っています。	活動指標1	名称	推進委員会開催回数		単位	回
		内容説明	推進委員会と研修会等の開催回数			
		指標値		3年度	4年度（当該年度）	5年度
			予 定	4	4	4
			実 績	3	4	―――
成 果（効果・予測） ・組織及び運営に青少年の健全育成を目的とした他団体が連携して取り組むことにより、地域における青少年健全育成が活性化することが期待されます。	活動指標2	名称	研修会等への役員参加地区数		単位	地区
		内容説明	研修会等に役員が参加した地区数			
		指標値		3年度	4年度（当該年度）	5年度
			予 定	9	9	9
			実 績	0	9	―――
課 題 ・感染症対策を講じながら効果的で効率的な事業展開を行っていくために、各地区の事業内容の見直しを行う必要があります。	活動指標3	名称	環境浄化活動の実施地区数		単位	地区
		内容説明	環境浄化活動に関わる事業を実施した地区数			
		指標値		3年度	4年度（当該年度）	5年度
			予 定	5	7	7
			実 績	7	8	―――
	活動指標4	名称			単位	
		内容説明				
		指標値		3年度	4年度（当該年度）	5年度
			予 定			
			実 績			―――

4. 今後の方針等

今後の方針等	2年度	Ⅱ：見直しのうえで継続	3年度	Ⅱ：見直しのうえで継続	4年度	Ⅱ：見直しのうえで継続
	事業内容を精査するとともに指導室、図書・学び交流課との連携を図り、コロナ禍の状況を見定めながら効果的な運営方法、活動内容について検討し提案していきます。					

5. 評価結果				
市の関与の妥当性	評価結果			市が関与する必要性があるか。
	2年度	3年度	4年度	B：市が関与する必要性が低くなりつつある。
	B	B	B	市が運営費を支援することを前提としつつも、各地区で趣向を凝らした独自の活動を行っています。
事務事業の成果	評価結果			さらに成果を上げるにはどうしたらよいか。
	2年度	3年度	4年度	B：成果を上げる余地が一部ある。
	B	B	B	推進委員会で情報交換等をより活発に行うことで、より効果的な運営を図っていきます。
事業費・人件費	評価結果			事業費、人件費は適正か。
	2年度	3年度	4年度	A：経費は適正な水準である。
	A	A	A	地域ぐるみの青少年健全育成活動を推進するための経費として、適正な水準であると考えます。
受益・負担の公平性	評価結果			受益の公平性と負担の適正化は図られているか。
	2年度	3年度	4年度	B：一部見直しが必要である。
	B	B	B	効果的な活動内容の周知を行い、参加者の増加を図ることにより、受益が偏ることをないようにすることが必要です。
社会的配慮	評価結果			市民参加、情報提供、ユニバーサルデザインへの対応、環境負担軽減、SDGsの達成に向けた取り組み5点について十分に行ったか。
	2年度	3年度	4年度	A：社会的配慮を十分に行っている。
	A	A	A	地区広報誌やチラシの配布など、各地区の実情に合わせた取り組みを十分に行っていると考えます。

事務事業名	こども体験事業			
事務事業担当	部 名	課 名	担当名	責任者
	こども部	こども・青少年課	こども・青少年活動推進係	富田 仁

1. 位置づけ・事務事業の期間

総合計画体系	基本目標	人の健康・未来に向かうこどもの学びと歩みを支えるまち		
	個別目標	こどもの豊かな心・健やかな体を育む		
	めざす成果	こどもが豊かな感性を身につけている		
根拠法令	名 称			
当該事業の法令等による義務付けの有無		無		
事務事業の期間	事業開始年度 平成26年度		事業終了（予定）年度	事業期間 設定無し

2. 事務事業の概要

対 象	総事業費 (単位：千円)			
小学5・6年生20人及び中学生10人		3年度（決算額）	4年度（決算額）	5年度（予算額）
	事業費	0	1,561	2,180
	人件費	74	4,839	4,468
目 的	総事業費	74	6,400	6,648
様々な体験を通し、豊かな感性やリーダーシップ等を育み、主体的に活動できる青少年を育成します。	5年度事業費（予算額）財源内訳			
	国支出金		0	
手段、手法【実施手法：直営・委託】 ・東日本大震災の被災地において、地域の人達との交流や被災地体験プログラムなどを行います。 ・企画運営は、青少年（高校生以上）を中心とした実行委員会によって行います。 ・青少年健全育成基金を活用します。	県支出金		968	
	市債		0	
	その他		1,212	
	一般財源		0	
	合 計		2,180	

3. 活動内容

活動指標1	名称	公募による実行委員数			単位	人
	内容説明	実行委員のうち、公募による青年の実行委員の数				
	指標値		3年度	4年度（当該年度）	5年度	
		予 定	0	10	10	
		実 績	0	13	――	
活動指標2	名称	実行委員会開催回数			単位	回
	内容説明	事業の企画等を検討するための会議回数				
	指標値		3年度	4年度（当該年度）	5年度	
		予 定	0	4	4	
		実 績	0	4	――	
活動指標3	名称				単位	
	内容説明					
	指標値		3年度	4年度（当該年度）	5年度	
		予 定				
		実 績			――	
活動指標4	名称				単位	
	内容説明					
	指標値		3年度	4年度（当該年度）	5年度	
		予 定				
		実 績			――	

課 題
・実行委員及び参加者の募集について、十分市民に周知されるよう広報の手段・方法を考える必要があります。
・参加者にとって、有益で効果的な学習体験の場となるよう、実情に合わせた体験プログラムを提供していく必要があります。
※令和4年度は新型コロナの影響で、事業手法を変更

4. 今後の方針等

今後の方針等	2年度	Ⅱ：見直しのうえで継続	3年度	Ⅱ：見直しのうえで継続	4年度	Ⅱ：見直しのうえで継続
	新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止対策を講じながら規模を縮小し事業を実施しました。今後も引き続き事業に関する情報を収集する等を行い、活動プログラムについて検討を行います。 【第2期「健康都市やまと」まち・ひと・しごと創生総合戦略関連事業】					

5. 評価結果				
市の関与の妥当性	評価結果			市が関与する必要性があるか。
	2年度	3年度	4年度	A：市が関与する必要性が高い。
	A	A	A	実行委員は青年ボランティアが主体であり、本事業には行政や協力団体が関わっていることから、その調整などは市が行う必要性が高いと考えます。
事務事業の成果	評価結果			さらに成果を上げるにはどうしたらよいか。
	2年度	3年度	4年度	B：成果を上げる余地が一部ある。
	—	—	B	震災を知らない参加者が増える中、年々変化していく被災地での活動プログラムにおいて実地検証を行い、さらに成果を上げていく必要があると考えます。
事業費・人件費	評価結果			事業費、人件費は適正か。
	2年度	3年度	4年度	A：経費は適正な水準である。
	A	A	A	充実したプログラムと参加者の確保のためには、適正であると考えます。
受益・負担の公平性	評価結果			受益の公平性と負担の適正化は図られているか。
	2年度	3年度	4年度	A：受益・負担は適正である。
	—	—	A	参加者からは往復の電車賃相当の負担金を徴収しており、適正であると考えます。
社会的配慮	評価結果			市民参加、情報提供、ユニバーサルデザインへの対応、環境負担軽減、SDGsの達成に向けた取り組み5点について十分に行ったか。
	2年度	3年度	4年度	A：社会的配慮を十分に行っている。
	—	—	A	市のホームページや広報等により、広く市民に周知し参加者を募っていることから、社会的配慮については十分であると考えます。

事務事業名	こども食堂支援事業			
事務事業担当	部 名	課 名	担当名	責任者
	こども部	こども・青少年課	こども・青少年育成係	富田 仁

1. 位置づけ・事務事業の期間					
総合計画体系	基本目標	人の健康・こどもがすくすく成長する産み育てやすいまち			
	個別目標	妊娠・出産・子育てを切れ目なく支援する			
	めざす成果	すべてのこどもがすくすくと健康に育っている			
根拠法令	名 称				
当該事業の法令等による義務付けの有無		無			
事務事業の期間	事業開始年度		事業終了（予定）年度		事業期間
	平成28年度				設定無し

2. 事務事業の概要						
対 象		総事業費 (単位：千円)				
こども食堂を実施する団体			3年度（決算額）	4年度（決算額）	5年度（予算額）	
		事業費	1,936	2,944	6,540	
		人件費	2,605	2,605	1,713	
目 的		総事業費	4,541	5,549	8,253	
子どもの孤食を減らすとともに、子どもにとって安心できる地域の居場所づくりと保護者の子育て支援を目的とします。		5年度事業費（予算額）財源内訳				
		国支出金		4,905		
		県支出金		0		
		市債		0		
		その他		0		
		一般財源		1,635		
		合 計		6,540		
手段、手法【実施手法：直営】						
・こども食堂を実施する団体に対して補助金を交付します。						
3. 活動内容						
活動指標 1	名称	補助金交付か所			単位	か所
	内容説明	補助金を交付したか所				
	指標値		3年度	4年度（当該年度）	5年度	
		予 定	5	6	9	
		実 績	6	6	－ － －	
活動指標 2	名称				単位	
	内容説明					
	指標値		3年度	4年度（当該年度）	5年度	
		予 定				
		実 績			－ － －	
活動指標 3	名称				単位	
	内容説明					
	指標値		3年度	4年度（当該年度）	5年度	
		予 定				
		実 績			－ － －	
活動指標 4	名称				単位	
	内容説明					
	指標値		3年度	4年度（当該年度）	5年度	
		予 定				
		実 績			－ － －	
課 題						
・こども食堂が効果的に実施できるよう、情報交換会を通じて補助団体同士の連携を図ることが求められています。						
・新たにこども食堂の開設を検討している団体が複数あることから、地域におけるこども食堂のニーズ等を踏まえ、補助金を交付するこども食堂の数や実施地域等について検討が必要です。						

4. 今後の方針等						
今後の方針等	2年度	Ⅱ：見直しのうえで継続	3年度	Ⅱ：見直しのうえで継続	4年度	Ⅱ：見直しのうえで継続
	コロナ禍におけるこども食堂の開催について、感染防止対策を徹底しつつ、可能な限り開催できるよう、補助金交付団体との調整を継続して行います。 補助金交付団体による情報交換会の実施などの支援を行うことで、団体間の連携を図っていきます。 補助金を交付するこども食堂の数や実施場所等について、市内における実施団体数や実施場所等を考慮して引き続き検討を進めます。					

5. 評価結果				
市の関与の妥当性	評価結果			市が関与する必要性があるか。
	2年度	3年度	4年度	A：市が関与する必要性が高い。
	A	A	A	子どもの居場所づくりと保護者の子育て支援を目的としていることから、市内におけるこども食堂の実施団体の充実や実施場所の適正配置を進めるためには市の関与が必要です。
事務事業の成果	評価結果			さらに成果を上げるにはどうしたらよいか。
	2年度	3年度	4年度	B：成果を上げる余地が一部ある。
	B	B	B	補助金交付団体による情報交換会の実施などの支援を行う団体間の連携を促して行きます。
事業費・人件費	評価結果			事業費、人件費は適正か。
	2年度	3年度	4年度	A：経費は適正な水準である。
	A	A	A	補助金については、こども食堂実施団体の運営経費の一部としていることから、事業費及び人件費ともに適正な水準です。
受益・負担の公平性	評価結果			受益の公平性と負担の適正化は図られているか。
	2年度	3年度	4年度	A：受益・負担は適正である。
	A	A	A	こども食堂利用者に対して、無料または安価な食事を提供することが求められていることから、適正化は図られています。
社会的配慮	評価結果			市民参加、情報提供、ユニバーサルデザインへの対応、環境負担軽減、SDGsの達成に向けた取り組み5点について十分に行ったか。
	2年度	3年度	4年度	A：社会的配慮を十分に行っている。
	A	A	A	広報やまとや、市のホームページへの掲載、市内小中学校へのチラシ配布等において、こども食堂の活動を市民に周知するとともに、食材の寄附やボランティアの募集について、市民参加を促しています。

事務事業名	青少年健全育成都市宣言推進事業			
事務事業担当	部 名	課 名	担当名	責任者
	こども部	こども・青少年課	こども・青少年育成係	富田 仁

1. 位置づけ・事務事業の期間

総合計画体系	基本目標	人の健康・未来に向かうこどもの学びと歩みを支えるまち		
	個別目標	こどもの豊かな心・健やかな体を育む		
	めざす成果	こどもが豊かな感性を身につけている		
根拠法令	名 称	地方青少年問題協議会法		
当該事業の法令等による義務付けの有無		有		
事務事業の期間	事業開始年度		事業終了（予定）年度	事業期間
	昭和49年度			設定無し

2. 事務事業の概要

対 象	総事業費（単位：千円）			
市民		3年度（決算額）	4年度（決算額）	5年度（予算額）
	事業費	633	707	732
	人件費	3,722	4,839	3,202
目 的	総事業費	4,355	5,546	3,934
家庭、学校、地域社会が相互の連携を密にし、市民総ぐるみで青少年の健全育成を図ります。 手段、手法【実施手法：直営】 ・青少年に関する総合的施策の樹立に必要な重要事項について調査・審議し、関係機関相互の連絡調整を図るため、青少年問題協議会を設置します。 ・毎年11月に実施される「子供・若者育成支援推進強調月間」（内閣府提唱）に合わせて、青少年健全育成大会等を開催します。	5年度事業費（予算額）財源内訳			
	国支出金			0
	県支出金			0
	市債			0
	その他			0
	一般財源			732
	合 計			732
	3. 活動内容			
	活動指標1	名称	青少年健全育成大会の開催回数	単位 回
		内容説明	青少年育成活動推進者表彰、青少年善行表彰等	
		指標値	3年度	4年度（当該年度）
			予 定	1
			実 績	1
成 果（効果・予測） ・式典で表彰することにより、市民各層の理解と協力を喚起できます。 ・市民総ぐるみの運動として、効果的な推進が図れます。 ・優秀作文の表彰や小・中学生、高校生の代表による朗読により、青少年の健全な活動の一層の啓発が期待できます。	活動指標2	名称	青少年問題協議会の開催	単位 回
		内容説明	青少年育成関係機関及び団体の代表による諸問題の協議	
		指標値	3年度	4年度（当該年度）
			予 定	2
			実 績	2
	活動指標3	名称		単位
		内容説明		
		指標値	3年度	4年度（当該年度）
			予 定	
			実 績	
課 題 ・青少年に関する様々な課題や支援等について、関係機関との継続した連携が必要です。	活動指標4	名称		単位
		内容説明		
		指標値	3年度	4年度（当該年度）
			予 定	
			実 績	

4. 今後の方針等

今後の方針等	2年度	Ⅱ：見直しのうえで継続	3年度	Ⅱ：見直しのうえで継続	4年度	Ⅱ：見直しのうえで継続
	青少年に関する様々な課題や支援等について、関係機関や青少年健全育成団体等との情報共有に努めるとともに、青少年を取り巻く喫緊の課題にも対応できるよう、こども家庭庁を中心とした国の動向を踏まえつつ、効果的な連携や手法等についての検討を継続します。					

事務事業名	青少年キャンプ施設管理運営事業			
事務事業担当	部 名	課 名	担当名	責任者
	こども部	こども・青少年課	こども・青少年活動推進係	富田 仁

1. 位置づけ・事務事業の期間

総合計画体系	基本目標	人の健康・未来に向かうこどもの学びと歩みを支えるまち		
	個別目標	こどもの豊かな心・健やかな体を育む		
	めざす成果	こどもが豊かな感性を身につけている		
根拠法令	名 称			
当該事業の法令等による義務付けの有無		無		
事務事業の期間	事業開始年度 昭和58年度		事業終了（予定）年度	事業期間 設定無し

2. 事務事業の概要

対 象	総事業費 (単位：千円)			
青少年、青少年育成団体、親子等		3年度（決算額）	4年度（決算額）	5年度（予算額）
	事業費	7,612	9,459	9,985
	人件費	744	4,839	5,585
目 的	総事業費	8,356	14,298	15,570
野外での活動を通して、青少年が自然に親しみ、情操を高め、心豊かな人間性を培う場や、親子のふれあいを深める場を提供します。 手段、手法【実施手法：委託・指定管理】 ・泉の森ふれあいキャンプ場を開設し、青少年団体や親子等に提供します。 ・青少年健全育成基金を活用します。	5年度事業費（予算額）財源内訳			
		国支出金		0
		県支出金		0
		市債		0
		その他		0
		一般財源		9,985
		合 計		9,985

成 果（効果・予測） ・自然の中で様々な体験をすることにより、親子のふれあいが図られるとともに、青少年の情操や社会性、自立性が養われます。	活動指標1	名称	開設日数（泉の森ふれあいキャンプ場）		単位	日
		内容説明	年間開設日数			
		指標値		3年度	4年度（当該年度）	5年度
			予 定	211	240	302
			実 績	5	192	――
	活動指標2	名称			単位	
		内容説明				
		指標値		3年度	4年度（当該年度）	5年度
			予 定			
			実 績			――
課 題 ・泉の森ふれあいキャンプ場の施設が老朽化していることから、計画的な修繕が必要です。 ・今後も新型コロナウイルス感染症に注視しながら、事業を実施していきます。 ※令和4年度は、新型コロナの影響で一部の事業を中止	活動指標3	名称			単位	
		内容説明				
		指標値		3年度	4年度（当該年度）	5年度
			予 定			
			実 績			――
	活動指標4	名称			単位	
		内容説明				
		指標値		3年度	4年度（当該年度）	5年度
			予 定			
			実 績			――

4. 今後の方針等

今後の方針等	2年度	Ⅱ：見直しのうえで継続	3年度	Ⅱ：見直しのうえで継続	4年度	Ⅰ：現状のまま継続
	新型コロナウイルス感染状況などを注視しながら、引き続き施設を安全に利用できるよう適切に維持管理を行う必要があり、キャンプエリアのナラ枯れ等についても関係部署と連携しながら適切に対応していきます。また、テントサイトの整備については、地元ボランティアなどとの協議を行いながら方向性を見定めていきます。					

事務事業名	青少年センター運営事業			
事務事業担当	部 名	課 名	担当名	責任者
	こども部	こども・青少年課	こども・青少年育成係	富田 仁

1. 位置づけ・事務事業の期間

総合計画体系	基本目標	人の健康・未来に向かうこどもの学びと歩みを支えるまち		
	個別目標	こどもの豊かな心・健やかな体を育む		
	めざす成果	こどもが豊かな感性を身につけている		
根拠法令	名 称			
当該事業の法令等による義務付けの有無		無		
事務事業の期間	事業開始年度 平成08年度		事業終了（予定）年度	事業期間 設定無し

2. 事務事業の概要

対 象	総事業費 (単位：千円)			
市内在住・在勤・在学の青少年、青少年団体、青少年育成関係者等		3年度（決算額）	4年度（決算額）	5年度（予算額）
	事業費	1,613	1,667	2,137
	人件費	1,271	1,805	2,336
目 的	総事業費	2,884	3,472	4,473
青少年健全育成の立場から、青少年や青少年団体等へ施設を提供します。	5年度事業費（予算額）財源内訳			
	国支出金			0
手段、手法【実施手法：直営】 ・青少年や青少年団体等へ施設を提供します。 ・中高生ボランティアを募り、青少年センターまつりを開催します。	県支出金			50
	市債			0
	その他			0
	一般財源			2,087
	合 計			2,137
3. 活動内容				
活動指標1	名称	利用者数	単位	人
	内容説明	年間利用者数の累計		
	指標値		3年度	4年度（当該年度）
		予 定	500	1,500
		実 績	820	2,199
活動指標2	名称	青少年及び指導者の利用割合	単位	%
	内容説明	年間利用者総数に占める青少年及び青少年指導者等の割合		
	指標値		3年度	4年度（当該年度）
		予 定	100	100
		実 績	100	100
活動指標3	名称		単位	
	内容説明			
	指標値		3年度	4年度（当該年度）
		予 定		
		実 績		
活動指標4	名称		単位	
	内容説明			
	指標値		3年度	4年度（当該年度）
		予 定		
		実 績		
課 題				
・より多くの青少年や青少年団体に利用を促すとともに、適切な施設管理が求められています。 ・多くの中高生ボランティアが青少年センターまつりに参加するよう、効果的な募集方法についての検討が必要です。				

4. 今後の方針等

今後の方針等	2年度	Ⅱ：見直しのうえで継続	3年度	Ⅱ：見直しのうえで継続	4年度	Ⅱ：見直しのうえで継続
	より多くの青少年や青少年団体、青少年育成関係者等が利用するよう、適切な施設の維持管理に努めるとともに、コロナ禍の状況を見定めながら、より効果的な施設利用促進の手法等について引き続き検討します。また、青少年センターまつりを通じて中高生ボランティアが主体的に活動できる機会の確保に努めます。					

事務事業名	二十歳の祝典開催事業			
事務事業担当	部 名	課 名	担当名	責任者
	こども部	こども・青少年課	こども・青少年活動推進係	富田 仁

1. 位置づけ・事務事業の期間					
総合計画体系	基本目標	人の健康・未来に向かうこどもの学びと歩みを支えるまち			
	個別目標	こどもの豊かな心・健やかな体を育む			
	めざす成果	こどもが豊かな感性を身につけている			
根拠法令	名 称				
当該事業の法令等による義務付けの有無		無			
事務事業の期間	事業開始年度		事業終了（予定）年度		事業期間
	昭和36年度				設定無し

2. 事務事業の概要							
対 象		総事業費（単位：千円）					
本年度20歳になる市民			3年度（決算額）	4年度（決算額）	5年度（予算額）		
		事業費	11,563	6,752	9,882		
		人件費	6,254	7,891	10,053		
目 的		総事業費	17,817	14,643	19,935		
都市宣言の理念のもとに育まれた青少年が、人生の節目の日を自ら祝うため、実行委員として企画運営に参加し、有意義なイベントを作り上げていきます。		5年度事業費（予算額）財源内訳					
		国支出金		0			
		県支出金		0			
		市債		0			
		その他		0			
		一般財源		9,882			
		合 計		9,882			
手段、手法【実施手法：直営・委託】 ・式典対象の市民が主体となり開催できるよう、本年度20歳になる対象者と昨年以前の式典実行委員経験者を中心とした実行委員会を組織します。 ・実行委員会に企画・運営・実施を委託します。		3. 活動内容					
		活動指標1	名称	実行委員会の開催数		単位	回
			内容説明	二十歳の祝典の内容等を検討する回数（部会を含む。）			
			指標値		3年度	4年度（当該年度）	5年度
				予 定	16	16	16
成 果（効果・予測）			実 績	27	21	――	
・20歳になる市民にとって自らの式典であるという自覚を高めることができます。 ・20歳になる市民が友人や恩師等と会する機会を設けることで、学生時代を懐かしむとともに絆を深めることができます。 ・市民が企画・運営等に参加することで、市全体で20歳になる市民を祝い励ますことを実現します。		活動指標2	名称	二十歳の祝典実行委員の募集		単位	人
			内容説明	公募による実行委員数			
			指標値		3年度	4年度（当該年度）	5年度
				予 定	10	10	10
		課 題			実 績	8	8
・公募に応じる実行委員の人数を増加させるため、効果的な周知方法の検討が必要です。 ・新型コロナウイルス感染症の感染状況を見定めつつ、出席者と当日運営に関わるボランティア等の安全を考慮しながら実施する必要があります。		活動指標3	名称	参加人数		単位	人
			内容説明	参加対象者の70%を目標とした参加人数実績			
			指標値		3年度	4年度（当該年度）	5年度
				予 定	2,800	1,400	1,400
		課 題			実 績	2,725	1,403
		活動指標4	名称			単位	
			内容説明				
			指標値		3年度	4年度（当該年度）	5年度
				予 定			
					実 績		

4. 今後の方針等					
今後の方針等	2年度	Ⅱ：見直しのうえで継続	3年度	Ⅱ：見直しのうえで継続	4年度
	Ⅱ：見直しのうえで継続 新型コロナウイルス感染症の感染状況を注視しながら、式典の運営や手法について検討を重ねていきます。また、実行委員会における効率的な会議の運営などについて継続して検討するほか、参加者にとって式典が心に残り、市への愛着が深まるよう効果的な演出方法等を検討していきます。				

事務事業名	親子ふれあい推進事業			
事務事業担当	部 名	課 名	担当名	責任者
	こども部	こども・青少年課	こども・青少年活動推進係	富田 仁

1. 位置づけ・事務事業の期間

総合計画体系	基本目標		人の健康・未来に向かうこどもの学びと歩みを支えるまち			
	個別目標		こどもの豊かな心・健やかな体を育む			
	めざす成果		こどもが豊かな感性を身につけている			
根拠法令	名 称					
当該事業の法令等による義務付けの有無		無				
事務事業の期間	事業開始年度		事業終了（予定）年度		事業期間	
	昭和58年度				設定無し	

2. 事務事業の概要

対 象	総事業費 (単位：千円)			
市民		3年度（決算額）	4年度（決算額）	5年度（予算額）
	事業費	0	871	3,968
	人件費	4,913	6,104	7,075
目 的	総事業費	4,913	6,975	11,043
親子のふれあいや子どもと地域住民との交流を深めます。	5年度事業費（予算額）財源内訳			
	国支出金	0		
手段、手法【実施手法：直営・委託】 ・ふれあい広場推進委員会に委託し、市内15箇所でふれあい広場を実施します。 ・青少年指導員連絡協議会に親子ナイトウォークラリーを委託し、実施します。	県支出金	1,984		
	市債	0		
	その他	0		
	一般財源	1,984		
	合 計	3,968		

3. 活動内容

	活動指標 1	名称	ふれあい広場開催回数			単位	回	
		内容説明	ふれあい広場を開催した回数					
		指標値		3年度	4年度（当該年度）	5年度		
			予 定	15	15	15		
		実 績	0	0	— — —			
成 果（効果・予測）		活動指標 2	名称	親子ナイトウォークラリーコース数			単位	本
・親子のふれあいや地域への愛着を深め、青少年の健全育成や明るい家庭づくりに寄与します。			内容説明	親子ナイトウォークラリーのコース数				
			指標値		3年度	4年度（当該年度）	5年度	
				予 定	0	3	3	
		実 績	0	3	— — —			
課 題		活動指標 3	名称				単位	
			内容説明					
			指標値		3年度	4年度（当該年度）	5年度	
				予 定				
		実 績			— — —			
※令和4年度は、新型コロナの影響で一部の事業を中止 ※令和4年度の親子ナイトウォークラリーは、雨天のため事業を中止		活動指標 4	名称				単位	
			内容説明					
			指標値		3年度	4年度（当該年度）	5年度	
				予 定				
		実 績			— — —			

4. 今後の方針等

今後の方針等	2年度	Ⅱ：見直しのうえで継続	3年度	Ⅱ：見直しのうえで継続	4年度	Ⅱ：見直しのうえで継続
	今後も新型コロナウイルス感染症の感染状況を注視しながら、事業の適切な実施に向けて、開催方法を検討してまいります。					

事務事業名	青少年健全育成基金管理事務			
事務事業担当	部 名	課 名	担当名	責任者
	こども部	こども・青少年課	こども・青少年育成係	富田 仁

1. 位置づけ・事務事業の期間					
総合計画体系	基本目標	人の健康・未来に向かうこどもの学びと歩みを支えるまち			
	個別目標	こどもの豊かな心・健やかな体を育む			
	めざす成果	こどもが豊かな感性を身につけている			
根拠法令	名 称				
当該事業の法令等による義務付けの有無		無			
事務事業の期間	事業開始年度 平成16年度		事業終了（予定）年度		事業期間 設定無し

2. 事務事業の概要						
対 象		総事業費 (単位：千円)				
青少年健全育成基金			3年度（決算額）	4年度（決算額）	5年度（予算額）	
		事業費	1	400	202	
		人件費	372	372	149	
目 的		総事業費	373	772	351	
青少年の健全育成のための基金を適正に管理します。		5年度事業費（予算額）財源内訳				
手段、手法【実施手法：直営】 ・基金を管理するとともに、市民からの寄附金を受け入れます。		国支出金		0		
		県支出金		0		
		市債		0		
		その他		202		
		一般財源		0		
		合 計		202		
3. 活動内容						
活動指標 1	名称	寄附金受入件数			単位	件
	内容説明	年間に寄附金を受け入れた件数（ふるさと納税の寄附を除く）				
	指標値		3年度	4年度（当該年度）	5年度	
		予 定	1	1	1	
		実 績	0	2	――	
活動指標 2	名称				単位	
	内容説明					
	指標値		3年度	4年度（当該年度）	5年度	
		予 定				
		実 績			――	
活動指標 3	名称				単位	
	内容説明					
	指標値		3年度	4年度（当該年度）	5年度	
		予 定				
		実 績			――	
活動指標 4	名称				単位	
	内容説明					
	指標値		3年度	4年度（当該年度）	5年度	
		予 定				
		実 績			――	
課 題						
・ふるさと納税により増加が見込まれる基金の用途について検討が必要です。						

4. 今後の方針等					
今後の方針等	2年度	Ⅱ：見直しのうえで継続	3年度	Ⅱ：見直しのうえで継続	4年度 Ⅱ：見直しのうえで継続
	基金を適正に管理するとともに、ふるさと納税により増加している基金の用途について検討を継続します。				

事務事業名	市民活動拠点ベテルギウス施設維持管理事業			
事務事業担当	部 名	課 名	担当名	責任者
	こども部	こども・青少年課	こども・青少年活動推進係	富田 仁

1. 位置づけ・事務事業の期間				
総合計画体系	基本目標	健康な行政経営・即応性の高い行政経営		
	個別目標	公共施設・公有財産の適正管理		
	めざす成果			
根拠法令	名 称			
当該事業の法令等による義務付けの有無		有		
事務事業の期間	事業開始年度	事業終了（予定）年度		事業期間
	平成30年度			設定無し

2. 事務事業の概要								
対 象		総事業費 (単位：千円)						
市民活動拠点ベテルギウス			3年度（決算額）		4年度（決算額）		5年度（予算額）	
		事業費	40,146		47,312		50,919	
		人件費	7,444		6,700		6,181	
目 的		総事業費	47,590		54,012		57,100	
市民活動拠点ベテルギウスを適正に維持管理します。		5年度事業費（予算額）財源内訳						
		国支出金		0				
手段、手法【実施手法：直営】 ・建物衛生管理・清掃・各種保守点検を委託により実施し、施設を適正に維持管理します。		県支出金		0				
		市債		0				
		その他		2,991				
		一般財源		47,928				
		合 計		50,919				
3. 活動内容								
活動指標 1	名称	維持管理件数					単位	件
	内容説明	委託件数						
	指標値		3年度	4年度（当該年度）	5年度			
		予 定	17	14	14			
		実 績	14	15	――			
活動指標 2	名称	修繕等件数					単位	
	内容説明	修繕を行った件数						
	指標値		3年度	4年度（当該年度）	5年度			
		予 定	9	4	2			
		実 績	8	10	――			
活動指標 3	名称						単位	
	内容説明							
	指標値		3年度	4年度（当該年度）	5年度			
		予 定						
		実 績			――			
活動指標 4	名称						単位	
	内容説明							
	指標値		3年度	4年度（当該年度）	5年度			
		予 定						
		実 績			――			
課 題								
・旧図書館及び生涯学習センターを改修した施設であるため、既存部分を含め必要に応じ補修等を行い、適切に維持管理していく必要があります。 ・光熱水費をはじめ、維持管理に必要な経費の縮減に努める必要があります。								

4. 今後の方針等						
今後の方針等	2年度	Ⅱ：見直しのうえで継続	3年度	Ⅱ：見直しのうえで継続	4年度	Ⅱ：見直しのうえで継続
	設備の老朽化に伴い、計画的に施設管理を行う必要があります。 維持管理費の削減に努めながら施設を維持していく必要があります。 【第2期「健康都市やまと」まち・ひと・しごと創生総合戦略関連事業】					